

互いに仕え合う文化をつくろう（「召されている」という生き方⑧）

マタイの福音書20章20～28節



このシリーズの最終回です。先週、教会は「キリストによって…愛のうちに建てられる」ことを学びました。そのように、これまで学んできたすべては、「愛をもって互いに仕え合う」ことによって実現していきます。

それは具体的には、自己実現や力を追求する現代文化の中であって、特にリーダーたちの姿に、また仕える者として成熟していく私たちの姿に表れます。

① しもべとしてのイエスキリスト

“あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。” 26-

② 私たちを動かす内側からの喜び

“ほかの十人はこれを聞いて、この二人の兄弟に腹を立てた。そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。あなたがたの間では、そうであってはなりません。…」 24-

“私が伝えたいことは、こうです。わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださるのです。神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。” 2コリント9:6-

③ 仕える者たちの文化を造ろう

“あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。” 26-

<私たちニューコミュニティのビジョン>

私たちのビジョンは、イエスキリストの弟子として神の愛に生きることをめざし、聖霊によって互いに愛し合う交わりを生み出していくことです。

<話し合ってみましょう>

- ・しもべとして仕えるということは、どういうことだと思いますか。イエス様の語られたことは「人の要望や期待に応える」ということとはどのように違うと思いますか。